



知教労ニュース

発行 知多地方教職員労働組合(知教労)
〒475-0929 半田市仲田町1-18 Tel&Fax 0569-24-5216
HP: http://chikyoro.ikaduchi.com/ e-mail: chikyoro@oobe.ocn.ne.jp

「全国学力・学習状況調査」は本当に必要なテストか?!

全国学力テスト 実施決定は市町教委の権限 教育委員会の議論は、その見識が問われている

すでに四月二十二日に実施が決まっている、全国学力・学習状況調査の実施について、知教労では各市町の教育委員会で参加についての議論がなされたのかどうかについて情報公開を使っ

て調査している。
昨年度は、愛教労が県下の市町すべてを調査したところ、知多では三つの市町が教育委員会を開き、議事録を残していたが、あとの市町では十分な議論もなく、中には「教育長の専断事項として(半田市)などと答えたところもあり、教育の独立とは何かを考えさせられる結果が浮き彫りになった。今年度についても調査結果をまとめてお知らせする予定であるが、現在のところ、昨年知教労が批判したこともあり、すべての市町で、教育委員会の「議題」として扱われている。

各市町の議論を見てみると、「平成二十年度も実施するかの調査がきております」とか「来年度も再来年も、もう日程は決まっています」など相変わらず文科省たのみの姿勢が見える議論が多い中で、「今回の結果について、確かな検証もまだ行われていない段階での参加決定は早すぎるかと思つている」「学力テストで全国的な傾向を見るなら、小学校一校、中学校一校という抽出校対応くらいにしてもいいのではないか(いずれも武豊町、十一月二十一日時点)などというまじめな意見も出ている」とは注目だ。
阿久比町では、委員から「意思決定

北から南から

教育誌クレスコ1月号に「もっとも健康な人生に遠い職業は、教職員であるかもしれない。少なくとも企業や自治体に雇用されている人たちは、職場が健康を支える仕組みを提供しているが、教職員には健康診断しかない。それも多忙ゆえ、再検査や精密検査、受診など健康診断の後始末にはなかなかめぐりあえない。とくに、健康診断ができない『こころのかぜ』や『こころの骨折』にかかると、誰も面倒をみてくれない…」と書かれていた。

その通りである。A小学校に休職者、隣のB小学校にも、C小学校にも、D小学校にも…。昨年度の文科省が実施した教員の勤務実態調査からも、時間外勤務の常態化、深刻な長時間・過密労働が明らかになっている。放課も学習が遅れがちな子の指導、プリント類の印刷、子どものトラブルへの対応、着替え、保護者への連絡等々、トイレに行きたいと思っても行くのは2時間後。休日出勤して仕事をしている教員も多い。これでは、いつ体や心を休めることができるのか。

この教育現場に蔓延している過密長時間労働は、決して教員の自主性が生み出したものではない。教員は、子どもの話をゆったりと聞くことさえもできない。心身ともに追われているのである。

2007年度、「各職場で、労働安全衛生委員会が開かれるよう教頭会でも指導する」と言った教育委員会がある。産業医の準備を進めている市があるとも聞く。県教委は、『県立学校における長時間労働による健康障害防止のための面接指導実施要綱』を出した。

わたしたちの命と健康を守るために、そしてこれ以上の犠牲者を出さないために、労働安全運動をさらに進め、一刻も早く実効あるものにしていく必要がある。(Y.Y)



全国唯一、今年も不参加を決定した大山市の「英断」に対し、「議論がされていない」「市民の理解を得ていない」と言うならば、教育委員会は、文科省の上意下達事項を確認する議論をしてはならない。行政から独立して国民のための教育に責任を負う機関として、この調査にどのような教育的意義が見いだせるのか見識を示すべきだろう。



混乱している愛知県教委
四月からの勤務時間はどうなる
文科省からの4・3通達(すでに二年近くが経過)の導入に「現場が混乱するおそれがある」と難色を示し続けていた県教委だが、愛教労との交渉の結果「一定措置が遅れたことは認める」という見解を表明した。
昨年十二月に文科省から出された『公立学校等における労働安全衛

生体制の整備について』という通知の中でも、今年の四月から五十人以下でもすべての職場で、月に百時間以上の時間外労働者について、本人の申し出のもとに産業医との面談を設定する義務が各職場で発生する。
本来、この時間外勤務に関しては、管理職による「現認」か、「タイムカード等による管理」が不可欠だが、今回県教委は「職員が一ヶ月単位で自己申告をした」もので包括的に管理職が現認する体制をとるようになる。(詳細は、愛教労ニュース参照)
この間知教労は時間外労働時間根絶のたたかいを進めてきた。今回の県教委の動きから、各職場でいかに正確に時間外勤務を確認させるのがこれからの運動の課題となってくるだろう。

みんなの目

1970年に教員になった。「遅くない時期に、世の中が変わる。その新しい生き生きとした時代の一員なのだ。」という沸き

立つ思いを胸に教員になった。「組合活動の中で教育を良くし、私も子どもと共に成長したい。」と希望に燃えて教員になった。それは、子どものころから「教育を悪くしよう」とする攻撃をピンピンと感じながら育つてきていたからだ。▼たしか小二のころ「指導要領が改悪される。大変だ。」と先生や父が暗い表情で話していた。今思えば、教育委員の公選制を廃止した時期だった。▼私の父は当時、三重南紀の教職員組合の委員長をしていた。年配の女の先生が「教員をやめさせられる。子どもも小さいのに、どうしたらいいだろう。」と泣きながら相談にきていたこともある。女は50を越えれば辞めるのが当たり前だった。定年まで教員を続けることができるようになったのも、組合の闘いの賜だった。▼今、私たちは教員として、親として、教育基本法の改悪のもと、子どもたちに「どんなことが起きようとしているのか」を語らなければならないと思う。 Y・O

愛知県下連帯単組の動向

知ってるってつもい・Q&A

早くも好評のQ&Aコーナー、第2回は、身近な給料の明細書についてです。

組合名	3月の組合活動
一宮	・2/9集いに500名の参加・NPO法人主催になった。 ・教員、保護者のリレートークがよかった。
春日井	・休職者が6人→19人→22人(精神性15人)と増えている。
小牧	・2/28市教委との交渉を行った。 労働安全衛生法の実施、サービス残業などについて話し合った。
西春	・人事異動では、原田さんの転勤希望実現へ向けて活動をしている。
瀬戸	・2/9瀬戸教職員九条の会が開かれた。
名古屋	・執行委員が組合員のいる全職場で校長交渉申し入れ、予備交渉を開始した。 ・1校勤務10年が8年に短縮された。
尾北	・3/2学テ犬山シンポに多数の参加 ・PTA役員をはじめさまざまな立場からの意見が出され、有意義な討議になった。
三河	・2/29静岡県袋井市教委を訪問した。教員の負担を減らすために研究指定、教育論文を廃止した経緯を聞いた。

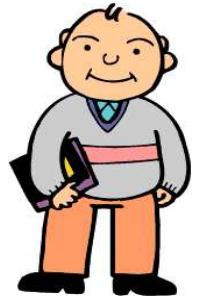
Q 給料の明細書を見ると「短期掛金」「長期掛金」という欄があり、かなりの金額が控除されています。健康保険料や今、問題になっている年金の掛金にあたると思いますが、どのように区別されているのでしょうか。

A 私たち公立学校の教員は『公立学校共済組合』という組織に加入しています。これは法律により定められた社会保険の一つで、この組織が健康保険と年金保険の仕事を行っています。私たちが「健康保険証」として医療機関に提示しているカードには正式名称で「愛知県公立学校共済組合員証」と書いてあります。

まず給料の明細書にある、「短期掛金」というのが、いわゆる健康保険にあたります。病気、負傷、災害などに対して給付され、掛金は、月例の給与の約3.7%になります。

また「長期掛金」というのが、年金保険にあたり、退職後の生活の安定のため、年金の給付を行います。掛金は、給与約9%です。例えば給料が40万円の人は、3万6000円程度が長期掛金として控除されていると思います。そして、長期掛金も短期掛金も、期末手当、いわゆるボーナスにも所定の掛金率によって控除されます。

そして、40歳以上になると新たに、「介護掛金」が控除されます。



協同学習を学んで『大造じいさんとガン』の読み取りに活かしました

5年生の国語『大造じいさんとガン』の学習で、「大造じいさんのガン(残雪)に対する考えや思い」、「大造じいさんにとって残雪はどのような存在なのか」について、4場面のそれぞれで話し合い活動を行い、読み取り学習を行いました。

初めて読んだ時と、4時間の読み取りの授業が終わった後のそれぞれで、「大造じいさんとガンを読んで」と題して感想を書きました。どの感想からも、最初と比べて考え方が深まったことを見ることができました。友だちの考えや、自分の考えを再認識することで、新たな考えを生み、そして深めていっていることを感じました。

<児童の書いた感想>

大造じいさんとガンを読んで思ったことは、1・2の場面と3の場面の半分までは、大造じいさんはガンだちと戦っていて、ライバルみたいだったけれど、3の場面の後半から4の場面は、二人とも仲間みたいな気がしました。ずっとそのままです。

大造じいさんのガン(残雪)に対する気持ちがすごく変わっていて、場面ごとで気持ちが変わっていました。全部読んでみると、場面ごとに読む感じが違ったので、すごくおもしろかったです。今までいろんなことをしてきて1番よかったのは、「大造じいさんにとって残雪は、～である。」を考えるのがすごく楽しかったです。

私は、「大造じいさんとガン」を読んで思いました。今まで、「大造じいさんにとってガン(残雪)は、～である。」ということを読み取ってきました。そこで、「敵」とか「ライバル」とか、いろいろなことを学んできて、最後に印象に残ったのは、「ライバル」ということでした。私はガン(残雪)は、ずっとずっと敵だと思っていましたが、みんなが言っていることも「あーそうか」と思い、よく分かりました。

<はじめと最後の感想が変わっていました!!>

1～4場面を全部読んで、1の場面では、大造じいさんとガン(残雪)は、仲が悪いという印象がありました。でも2の場面では、グループでうっとうしいと決まって、本当だなあと思いました。でも、最後では1の場面と同じ感じで、ライバルだと思いました。それを踏まえて、私は、「大造じいさんとガン(残雪)は、ライバルだけどちょっとだけ大切な存在」なのかなあと思いました。

授業後

大造じいさんとガンを読んでみて、最初は意味が分からなくて、どういう話かも知らなかったけど、最初ガンという鳥がいて、大造じいさんがガン(残雪)を捕まえたということなのかなあと思いました。あと、分からない言葉を調べてどういう意味なのか分かったのでよかったです。大造じいさんとガンは話が長いので、頑張って本読みをしたいと思います。

授業前

(K.S)

